

長野市松代町内の河川愛護活動

松代町河川愛護会

はじめに

松代町は、県都長野市の南東部に位置し、東西南にかけての3方を緑豊かな山々に、北は滔滔と流れる一級河川千曲川に囲まれている自然環境に恵まれた風光明媚な町です。(資料①、②)



資料①



資料②

かつてここは、戦国の名将・武田信玄が、越後の上杉氏の侵攻に備えるため海津城(現在の松代城)を築城した地であり、当地の北西に広がる川中島を舞台に両氏が激しい戦いを繰り広げた『川中島合戦』は、歴史に名高い戦として今に語り継がれています。

江戸期に入ると、六文銭の旗印で有名な真田氏が藩主として当地を治めるようになり、明治維新までの約250年間、信濃の国最大の藩『真田十万石の城下町』として大いに栄えました。(資料③)



資料③

現在は、昭和41年の市町村合併によって長野市松代町となっていますが、町の中心部には今も城下町の面影を色濃く残しており、年間約80万人の観光客が訪れる、歴史と文化の町であります。

愛護会設立の背景

松代町内には、千曲川に流れ込む1級河川が4河川存在しています。

これらの川は、町を囲む3方の急峻な山々を源流としているため、上流域で豪雨となると、山間地から濁流・土石流が発生し、中流から下流域にかけては幾度となく大洪水が発生し、人家や農作物に多大な被害を及ぼしてきました。

そして、昭和33・34年、町は2年連続の大水害に見舞われました。(資料④、資料⑤)



資料④



資料⑤

それまでは、地域の防災活動全般を、町内各地区を代表する区長(自治会)が中心となっていて行っていましたが、地域住民から「専門の機関を設置し、継続的に防災活動を行っていく必要がある」との声があがってきました。

このような背景から、繰り返される水害を防ぐためには河川の改修等が必要であることは勿論、川を知り、愛護の気持ちを共有し、河川環境を造成・維持することに地域が団結して取り組むための組織として、昭和35年12月当会は設立されました。

以来、今日まで51年間継続して活動を続けています。

組織の概要

当会の会員は、松代町の全戸約5,800戸、およそ18,000人です。

当町は大きく分けて7つの地区から構成されており、各地区から選出された役員計12名と、町内を流れる4河川ごとに選出された部会長によって会の運営を行っています。

なお、各種事業の実施にあたり必要な経費は、全会員から徴収する年会費及び、県・市からいただいている交付金によって賄われています。

また、各種事業を実施する際には「地域の河川は地域で守る」という理念に基づき、地域住民自らが活動に参加することを基本としています。

活動の目標

当会の活動は、次の7つの事業目標に基づいて実施されています。

1. 河川愛護思想の普及と河川環境の保全に努め、水害を未然に防ぐこと。
2. 地区・水系毎に危険箇所の調査・点検を行い、状況の把握に努めること。
3. 各河川の草刈・清掃を、各地区ごとに実施すること。
4. 河川の汚染・不法投棄が行われない環境づくりに取り組むこと。
5. 水辺に生息する動植物の環境の保全を図ること。
6. 地区内諸河川の河川施設の保全・整備のため、要望活動を行うこと。
7. 河川愛護活動の重要性を認識し、研修・訓練の為の事業を実施すること。

毎年これらの目標に沿って様々な事業を行っていますが、参考までに昨年実施した事業は以下のとおりです。

実施月	活動内容	詳細
6月	河川愛護思想の普及	地域住民に河川愛護精神の普及と啓発を行うため、地区回覧文を1,000部発行
7月	河川清掃・草刈	参加者：5,250人、作業距離：37,300m 作業面積：264,000
8月	各種要望の集約	河川の危険箇所、改修・修繕箇所の要望とりまとめ
9月	調査点検・研修会	施設見学、公共事業勉強会、工事現場の見学 危険箇所のパトロール
10月	先進地視察	視察研修旅行の実施
12月	要望活動	河川管理者(国・県・市)への要望要請活動
1月	要望等の回答報告	各種要望等に対する各河川管理者からの回答を地域住民に報告

この他、年1回の総会、毎月の役員会、隔月の常任委員会を開催しています。

活動事例の紹介

1. 河川機能の保全

近年、ゲリラ豪雨と呼ばれる局地的な大雨が降るようになり、地域限定の災害が発生する恐れが高まっています。これらを未然に防ぐため、また被害を最小限に抑えるためには、日常的な河川管理が欠かせません。

しかし、行政機関にそれらすべてを委ねることは至難な状況にあるため、年に1度河道内に繁茂する雑草の刈り払い及びごみ清掃を、各地区毎に住民総出で行っています。(資料⑥、⑦)



資料⑥



資料⑦

この活動は、河川機能の保全が主な目的ではありますが、有事の際には地元がいち早く初期活動を行わなくてはならないため、普段から川の状況を知るため、また危険箇所を早期に発見するためにも、非常に重要な活動であると考えています。(資料⑧)



資料⑧

2. 水生動物の保護

町内の小学生が、夏休みに親子で水辺の生態系生物を学ぶ場として、年2回の学習会を行っています。当会ではその際の案内役や事前の草刈等の管理を実施しています。

また、校外学習として行われた、カジカの放流・調査への協力も行っており、世代を超え、川に親しみ、川を愛する心を養うお手伝いをさせていただいています。(資料⑨)



資料⑨

その他、中流域では数十年間目にする事のなかった蛍が、懸命な努力により復活した事例も存在しています。

3. 親水性護岸の整備と維持管理

平成17年、市が親水性河川を整備し、その護岸およそ5,000㎡に芝桜の植栽を計画しました。その際、地元小学校から約320人、近隣住民約300人が植栽作業に参加しました。(資料⑩)



資料⑩

また、その後の維持管理にも毎年延べ1,000人を超える住民が草刈作業等に携わっており、最盛期の開花時期には堤防が芝桜の絨毯で覆われたようになり、大変見事な景色を魅せてくれました。(資料⑪)



資料⑪

ところが、平成21年夏、干ばつ等いくつかの悪条件が重なったため、この芝桜がほぼ全滅してしまったのです。整備当初から多くの方々の手によって大切に育てられてきただけに残念でなりませんでした。(資料⑫)



資料⑫

しかし、これまで手入れを行ってきた関係者の皆さんはここで諦める事無く、何とか最盛期の状態に戻そうと、僅かに残った株の移植、土壌改良・施肥・除草・散水等根気強く作業を続けた結果、今春、最盛期には及ばないものの、再度あのすばらしい景色を魅せてくれたのです。(資料⑬)



資料⑬

現在も月毎に当番地区を決め、散水と草刈作業を定期的に行っており、株の大きさも徐々に大きくなっているように思います。

今後も継続的に作業を続け、いつの日か堤防一面が芝桜の絨毯に覆われるよう、より一層努力してまいりたいと思います。

活動の効果・社会への波及効果

『地域の河川は地域で守る』をスローガンに50年間活動を継続してまいりました。その成果でどうか、町内を流れる川は堤防の形や流れる水が他の地区の河川より良く見えるような気がします。川のある景色、川が持つ癒しの効果に貢献していると思います。

また、自ら草刈作業を行うことによっていち早い危険箇所の発見・通報や、行政への要望など「できるだけ自分たちで」という意識が生まれています。

松代町は国内でも有数の歴史的建造物等を有し、遊学・城下町として歴男歴女だけでなく一般の観光客も増加傾向にあります。市街地は景観維持と歴史の町にふさわしい町並みの整備を進めており、その評価も高まってきています。市街地と併せ、山並みと中小河川の景観も住民の心の支えとなっています。

活動を続ける上での苦労点

当会発足以来50余年の活動が実を結び、河川改修が進んだことによって近年は大きな災害も無く推移していることもあつてか、住民の水害に対する危機意識がやや薄らいできているように思われます。また、地域住民の高齢化が進み、草刈作業等の重労働が伴う活動を従来通り実施することは困難を極めています。

当会といたしましては、被害が拡大しつつあるアレチウリの駆除等、今後も様々な活動を実施したいと考えているものの、このような事情から計画倒れとなる事も予想される状況です。

活動の今後の目標

① 河川も地域の共有財産と位置づけ、より一層の河川整備と維持管理の充実を図ります。

② 河川改修事業によって生み出された旧河川敷等を活用し、行政との連携を図りながら、前述したような親水性のある河川の造成に努め、子供たちの自然学術体験の場所を創造するとともに、住民や観光客等に安らぎを与える景観を造成します。

③ 河川敷を利用した植栽活動の輪を広げ、花と緑につつまれた街をつくります。

④ カジカやホタル等の水生動物や水辺動植物の増殖を図ります。

⑤ 防災訓練の実施や防災機器の地区配備等により、希薄化しつつある防災意識の啓蒙活動に努めます。

おわりに

当会発足のきっかけとなった水害対策として、町内4河川には現在、大型水門2基、排水機場11基、ポンプ施設が4基設置されております。

長野市内でも有数の水害地帯ではありますが、近年は大きな災害に見舞われることもなく、地域住民が安心して暮らせるようになりました。

これだけの施設が整備されてきたのは、過去50年に渡り活動が続けてこられた先輩方の熱意が行政機関を動かした結果でもあると解釈しており、あらためてその功績に深く敬意を表します。

松代町河川愛護会 会長 宮林 重成